

[男女共同参画社会づくり]

働きやすい職場にするために企業として出来ること

「ワーク・ライフ・バランスの推進」

ワーク・ライフ・バランスは、日本語で「仕事と生活の調和」と訳されます。簡単にいうと「プライベートも充実させながら、効率的でメリハリのある働き方をしましょう」ということです。共働き世帯の増加や少子高齢化の進行等に伴い、子育てや介護等の時間的制約が増える中、多様な人材が意欲を持って働くことができる環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスが実現できる働き方に変えていこうという動きが広がっています。

なぜ必要なのでしょう

- ①少子化を抑えるため、仕事か出産・育児かの二者択一構造を変える必要があります。ワーク・ライフ・バランスの取組が進んでいる欧米諸国では、働く女性を増やしつつ、同時に出生率を向上させています。
- ②共働き世帯が増える半面、家事負担が女性に偏る傾向があるため、男性も家事・育児に取り組んでいく必要があります。
- ③これから訪れる大介護時代を、誰もが仕事を失うことなく、乗り切る必要があります。
- ④労働力人口の減少が進む中、女性や高齢者を含む多様な人材を活かしていくためには多様な働き方を用意する必要があります。

できる事から取り組みを

- 休暇が取りやすい職場とするための業務の見直し
 - 就業規則における休業・休暇制度を育児や介護しやすいように見直し
 - 短時間勤務やフレックスタイムなど柔軟な働き方の導入
 - 男性の育児休業の推奨 など
- そして何よりも、経営トップのリーダーシップによる職場風土改革が大切です。

▶ ワーク・ライフ・バランスを実践することのメリット

企業側サイド

1. 多様な人材を活かした競争力の強化
2. 従業員の満足度や意欲向上による仕事の質の向上
3. 人材の定着による人事コストの抑制
4. 組織・業務体制の見直しによる業務の効率化 など

従業員サイド

1. 家族・友人などとの時間や、自己啓発、地域活動への参加などによる豊かな生活
2. ストレスの軽減と健康増進など

